



南部地区のなお一層の農業振興をめざして 新体制で平成22年度の普及活動をスタート



南部農業改良普及センター管内は、14 市町村からなり、農業生産の盛んな地域です。管内の農業生産額は 250 億円 (平成 18 年度) で、さとうきび、野菜、豚、花き、乳用牛が上位を占めています。近年、地下ダムの整備をはじめ、農地及び近代化施設の整備、農業機械施設の導入等が図られ、生産基盤は充実しつつあります。しかしながら、農業者の高齢化や担い手不足、生産資材の価格高騰、農産物価格の低迷等農業を取り巻く環境は依然として厳しいものがあります。

このような中、担い手の育成確保や栽培技術の高位平準化、生産・出荷体制の強化、生産コストの削減、作業の省力化の推進、環境に配慮した農業生産の実現、農地流動化による規模拡大、防災農業の確立等課題は山積しています。

このような状況を踏まえ、平成 22 年度は以下の課題に重点的に取り組みます。

1. 安定的な農業の担い手育成

新規就農者や認定農業者への技術・経営改善、農業青年クラブや農業士等組織活動の充実強化、就農女性の経営参画促進などを支援します。

2. おきなわブランドに向けた産地育成

野菜、花き、果樹、甘しょ等の拠点産地の育成、さとうきびの増産、畜産の生産供給体制の強化などを支援します。

3. 環境と調和した農業生産

エコファーマー等の育成、施肥の適正化、農薬の適正使用、食の安全確保などの取り組みを強化します。

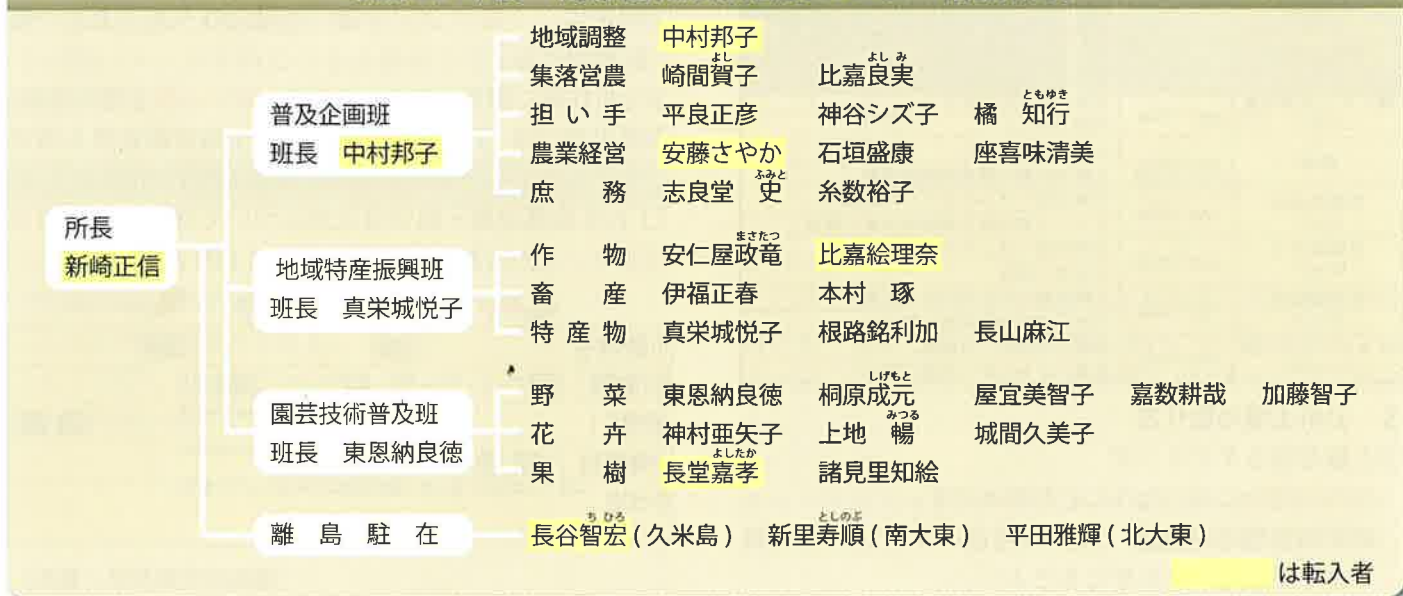
4. 地域資源活用による農村振興

地産地消の推進、都市・農村の交流による地域活性化、地域特産物の活用、島野菜の産地化を支援します。

これらの課題解決にあたっては、生産農家を始め、市町村、JA の関係機関・団体と密接に連携し、職員一丸となって取り組んで参ります。関係者の皆様には、今後とも農業改良普及事業へのご支援・ご協力をお願い致します。

南部農業改良普及センター 所長 新崎正信

平成 22 年度 南部農業改良普及センター活動体制



受けてみませんか、土壌の健康診断を!

— 樹づくりは根づくり、根づくりは土づくり、土づくりは生産性向上の第一歩! —

1 土づくりの意義について

近年、エコファーマー・特別栽培・GAP(農業生産工程管理)など消費者の安全・安心に対する関心の高まりとともに、環境に配慮した農業がますます求められております。

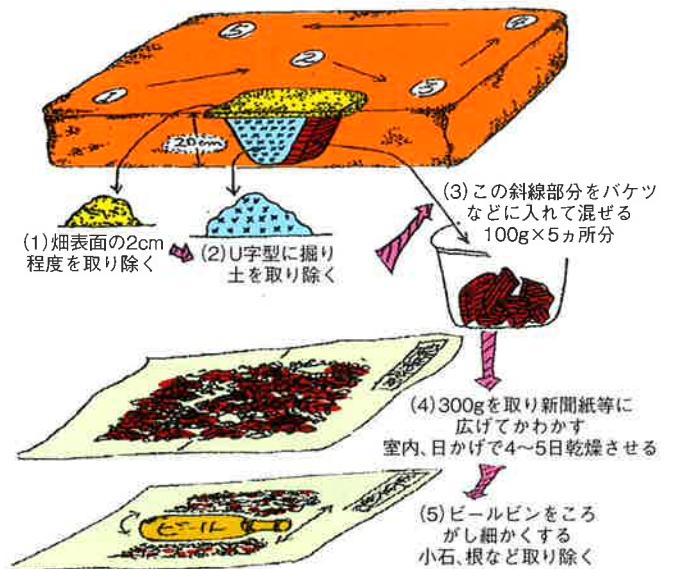
そのためには、作物本来の『基礎体力(樹勢)の維持による健全な生育』が前提であり、畑の健康状態を知ることは、「品質向上・増収」のみでなく「減農薬」等の対策においても重要です。

土壌の健康診断

【収穫後の疲れた体の健康チェック】



- ②土壌を取る深さは根の多い地中 15~20cm 付近より取る。
- ③土壌を取る位置は圃場別に圃場内の数ヶ所を偏りなくとって混ぜる。これは圃場ごとに行う
- ④土壌の量：乾燥させ、篩(ふる)いにかけて土を約100~300g(コップ一杯程度)取る。
- ⑤同一圃場内における生育差を確認する場合 土壌養分等にムラがあると思われるので、偏りを確認したい場合は、正常な位置、異常な位置を分けて取り、提出も別々にする。



4 土の提出方法

- ①提出期限は分析月日の1週間前までに提出(地域によって分析月日が異なるので事前に確認)する。
- ②所定の「土壌サンプル票」に記入のうえ、土と一緒に提出する。
- ③分析件数に限りがあり、必要最小限の点数を提出する。
- ④提出窓口は、JA各支店に行き、土壌診断結果も併せてJA各支店(生産部会等)を通して行う。(JA生産部会員・組合員以外については南部農業改良普及センターにおいても受け付けております。)

土壌サンプル票

①【耕作者名】	【住所】	【畑場所】
②土壌の種類	(国頭マージ・ジャーガル・島尻マージ)	【連絡先(TEL)】
③作物名	【次期作物】	※後作・作物転換のみ記入
④作物生育状況	(良好・悪い)	※樹勢が弱い等記入
⑤その他	以前(又は現在)あった土壌の問題などを記入してください	

2 分析項目について

以下の8項目について分析します。

【分析項目】	【単位】	【項目の意味】
		【数値から判ること】
土壌酸度 (pH)		肥料の溶け具合を左右(作物毎の適正值) 土壌中の酸度、養分の吸収に影響する
電気伝導率 (EC)	ms/cm	水に溶けた肥料濃度 多施肥や塩類集積等の目安
陽イオン交換容量 (CEC)	me/100g	土壌の胃袋の大きさ 保肥力の大小
腐植	mg/100g	土の生産力のもと 土質の改善や微量元素の補給
交換性石灰 (CaO)	mg/100g	交換性陽イオンのカルシウム量 タンパク質合成や細胞壁合成に関与
交換性苦土 (MgO)	mg/100g	交換性陽イオンのマグネシウム量 光合成に関与
交換性加里 (K ₂ O)	mg/100g	交換性陽イオンのカリウム量 作物体内の機能調節に関与
トルオーグリン酸 (P ₂ O ₅)	mg/100g	根酸で溶けるリン酸量 生長・エネルギー代謝に関与

3 分析土壌の取り方

①土壌を取るタイミング

作物収穫後におこなうことが基本です。

※次期作物の基肥前(前作収穫後のすき込み耕耘後すぐが最適)に土をとるとよい。

平成21年度カボチャの着果不良について ～優良事例から学ぼう～

みなさん、今期のカボチャはうまく着果しましたか？
今期は、12 月末から続く低温と雨天による影響で交配
がうまくいかず、着果不良になっているほ場が多く見
られました。

そのような中でも、現場でうまく着果しているほ場
がありましたので、着果不良のほ場と比較調査を行いま
した。その結果、着果の有無には、管理作業の違い
とちょっとした工夫があることがわかりました。

1.【現地における安定着果の優良事例から学ぶ】

- ①大型トンネルによる低温対策
2 m間口トンネルを設置し保温する。
- ②防風対策（季節風対策）
ほ場周囲にソルゴーまたは防風ネットを設置する。
- ③花粉用の品種導入
ほ場に植えつけるカボチャの内、花粉発生の良い品
種を 1 割程度植える（低温でも花粉発生の良い品種：
こふき、ほっこり 133 等）。
- ④1 本仕立ての実施
1 本仕立てをすることにより交配時期の前進化を図
り、温度が高い時期に交配する。
- ⑤人工交配の実施
柱頭への花粉の付着を多くするために手交配を行う。
- ⑥雨天時、雌花・雄花が雨に濡れない工夫
雄花は交配前日に採取し、暖かい室内に保管後、交
配に使用する。又、雌花が濡れないようにコップをか
ぶせる。
- ⑦つるの誘引による着果位置の工夫
2 m間口トンネル内につるを誘引してその中で交配、
着果させる。

2.【着果不良が見られるほ場の状況】

- 小型トンネル（1 m間口）で栽培している。
- 防風垣の設置がない。
- エビス中心の栽培である。
- 人工交配していない。
- 交配時期が遅れている。

いかがですか？ご自身のほ場の状況と比較してみ
て下さい。今回、優良事例から学ぶ「⑥雨天時、雌花・
雄花が雨に濡れない工夫」を他ほ場で試験し、着果率
が上がることも確認しています（下記の実証試験参考）。

カボチャの着果不良は天候に左右され、毎年起こる
ものでもありませんが、安定出荷のため、来期の作付
けの際には是非参考にして下さい。

* 実証試験 *

2 月 14～18 日まで、雨の予報があり、ちょうど交
配時期を迎えた T 氏圃場で 2 月 17 日に交配を行い、
交配後にコップをかぶせる雨対策区と、何もかぶせな
い無処理区を設置した。無処理区では交配後の雨で雌
花に水が溜まっていた（写真 1）。



雨対策区（雌花にコップをかぶせた） 無処理区（コップをかぶせない）

（写真 1） 2 月 17 日 交配状況



雨対策区 無処理区

（写真 2） 2 月 25 日 着果状況

2 月 25 日に着果率を確認したところ、雨対策区では
実が太り着果しており着果率は 87% で、無処理区では
実が黒くなり太っておらず着果率 0 % となった（写真
2）。

*

（園芸技術普及班 加藤）

南部地域の「さとうきびの日」関連行事

4月の第4日曜日は「さとうきびの日」です

南部農業改良普及センター管内では各地域で「さとうきびの日」関連行事が開催されていますが、今回は南部地区と粟国島での実施状況を紹介します。

1. 平成22年度南部地区「さとうきびの日」関連行事

今年の南部地区「さとうきびの日関連行事」は糸満市さとうきび生産組合と南部地区さとうきび生産振興対策協議会の共催で4月27日に糸満市農村環境改善センターで開催されました。

今回は経営安定対策要件として認められた病害虫防除（主にガイダー、共同防除）の周知を図り今後の増産運動につなげる事を目的に実施しました。具体的には①経営安定対策制度の対応について（糖業農産課：長元氏）②正しい農薬の使用法について（営農支援課：谷口氏）の講演があり、今後の経営安定対策制度の対応（共同防除）と農薬の飛散（ドリフト）対策について説明がありました。降雨のため実演会はできませんでしたが農薬会社の与那嶺氏と新垣氏により散布器具の利用方法についての説明もありました。



写真1 糸満市さとうきび生産組合長の挨拶



写真2 糖業農産課、長元氏の説明

2. 平成22年度粟国村「さとうきびの日」関連行事

粟国村の「さとうきびの日」関連行事は4月28日に粟国村の製糖工場のヤードで実施されました。

行事は粟国村長とJA粟国支店長の挨拶の後に普及センター担当が「メイチュウ類とハリガネムシの防除法」と「沖縄県さとうきび競作会の多収農家の肥培管理事例」の説明をしました。その後にはほ場に移り病害虫防除法とさとうきびの株出し管理機の実演が行われました。

参加者から「粟国村では新規就農者が増えておりさとうきびの生育ステージに合わせた指導をしてほしい」との要望がありました。



メイチュウ防除の説明



管理機の実演

都市と農村の交流とは？

～第10回 なんぶのはるみち 農業・農村体験ツアーより～

農業の良さや農産物を直接PRする農業体験活動の取り組みが増えてきましたが、南部管内の農漁業者 30 戸で構成する「みなみの味グリーン・ツーリズム」でも、個々の農業経営を活かした農業体験を実践しています。その活動を紹介しながら、都市農村交流とは何か、具体的手順を見てみましょう。

1. プラン作り

農業体験を始めるには、まず、プランを作成します。本業の農作業に影響なく、効果的に農産物をPRし、所得向上につなげるためには、それなりの計画を立てなくては出来ません。また、不特定多数の客から対価をいただくのですから、安全で魅力ある体験メニューが必要です。ここでは、紙面上、詳細を避けますが、普及センターでは、個別に計画書作成の支援を行っていますのでお気軽にご相談下さい。

2. モニターツアーの実施

計画書ができたら、実践の前に、本当にそれで良いのかを確認するため、実際に客を招いて実践してみます。「みなみの味グリーン・ツーリズム」では、実践前の会員に対し、このモニターツアーを実施し、評価し合い、実践につなげています。

3. 実践の流れ

(1) 宣伝告知をする

体験者(客)を募集するには、新聞、ラジオ等マスコミを活用します。また、人が集まる機会に、積極的にPRしたり、直売所やJA、官公庁、あらゆる関係機関・団体に積極的に協力を仰ぎましょう。

(2) 受け付けをする

第一印象が重要です。申し込みの電話対応から実践は始まっています。体験者から必要な情報を聞き取り、安心感とワクワク感を与え、実践日に備えます。体験者が確定したら、念のため、旅行障害保険に加入しましょう。最寄のJAや保険機関に相談し備えます。いよいよ実践当日です。受付時には快く迎え入れ、なるべく受付時に体験料を徴収します。



(3) 体験実践

①農作業体験

まずは、農業経営の紹介や体験メニューの説明を行います。

特に作業に当たっての安全面に注意を促します。説明後、実際に農業体験を開始、できるだけ多くの方々に寄り添って作業方法を指導します。農業の現状をダイレクトに伝える肝心な場面です。



②活用体験

農作業体験の後は、農産物の活用方法を体験させます。農家ならではの情報に体験者は興味津々、消費につながります。



③試食しながら交流

体験の後は、農産物を活用したおやつなどを試食しながら、ゆっくり対話します。農家と直接話せることで体験者は大変満足します。この感動体験が口コミ役やリピーターになってくれる要素です。



(4) お土産とアンケート評価

体験終了後、できるだけアンケートをお願いし、今後の活動に活かします。また、積極的に販売用の農産物や苗などを準備します。お土産を買って帰る体験者は意外と多く、所得向上にもなります。

都市農村交流・・・文字通りですが、対流とも言われ、癒し癒され、健康増進、所得の向上、都市側・農村側それぞれのニーズに合わせた活動、それが都市農村交流なのです。農業体験はその手段のひとつで両者にとって意義のある活動となっています。

(地域特産振興班 根路銘)

口蹄疫の侵入防止に取り組みましょう！！

靴底消毒の徹底と、他の畜舎への不必要な出入りは自粛しましょう！

平成 22 年 4 月、宮崎県において口蹄疫が発生しました。その侵入防止のための広報（県家畜保健衛生所、農林水産省、沖縄県畜産課）等から得た情報を提供します。

1. 口蹄疫とは

牛、水牛、めん羊、山羊、豚、しか、いのしし等（偶蹄類）の病気（法定伝染病）で、口蹄疫ウイルスが感染し約 40℃の発熱、元気消失、多量のよだれ、口・蹄・乳頭等に水ぶくれができ、食欲減退および足を引きずる等の症状が見られます。

治療法は無く、発生した場合は家畜伝染病予防法に基づき、まん延防止のため家畜所有者による“と殺”が義務づけられています。

・症例 1（牛の口の水ぶくれ：丸印）



・症例 2（豚の鼻の水ぶくれ：丸印）



2. 侵入防止について

本県には口蹄疫は侵入していませんが（H22.5.17 現在）、侵入防止を徹底することが重要です。

- 農場を訪問する車や持込器具等は必ず消毒！
- 関係者以外は農場への立入を極力控えましょう
- 飼養する家畜の健康観察は毎日丁寧に！
- 異変を感じたら、すぐに獣医師または最寄の家畜保健衛生所に連絡しましょう！

3. 畜舎入口に踏み込み消毒槽を設置しましょう

【安価で消毒効果のある消石灰乳剤の作り方】

水 10 l に消石灰を 0.1~1kg 溶かした消石灰乳剤を使用し、1 週間を目安に交換しましょう。また本県においては消石灰の配布が計画されていますが、早めに侵入防止用の消毒をしましょう。

資料提供：中央家畜保健衛生所



水 10 l に 0.1kg 溶かすと 1% 溶液
1kg 溶かすと 10% 溶液



～南部地区青年農業者育成確保対策協議会～

J A おきなわ南風原支店で、平成 22 年度南部地区青年農業者育成確保対策協議会定期総会が 4 月 20 日 (火) 午後 2 時から開催されました。15 名の構成員が集まる中、平成 21 年度の活動実績、収支決算と平成 22 年度の活動計画、収支予算及び新役員が承認されました。

この中で新会長の新崎正信氏 (南部農業改良普及センター所長) は、「平成 22 年度も青年農業者の育成及び確保の方針を検討していくため、引き続き協力をお願いしたい。」と各関係機関に対しあいさつを行いました。

(普及企画班 橘)



会長あいさつ

～南部地区農業士会～

平成 22 年度南部地区農業士会の定期総会が 4 月 20 日 (火)、午後 3 時より、JA おきなわ南風原支店で開催されました。

当日は、指導農業士、市町村、普及センター職員等 30 名の出席のもと、平成 21 年度の活動実績、収支決算と平成 22 年度の活動計画、予算が承認されました。

この中で来賓の新崎正信所長から「新規就農者の研修受入や地域リーダーとして活躍して、農業担い手育成に大いに役割発揮していただきたい」と激励の挨拶がありました。

(普及企画班 神谷)



会長あいさつ

～南部地区農業青年クラブ連絡協議会～

南部農業改良普及センターで、平成 21 年度定期総会が 4 月 20 日 (火) 午後 3 時から開催されました。

14 名のクラブ員等が集まる中、平成 21 年度の活動・収支決算と平成 22 年度活動計画、収支予算、新役員が承認されました。

新会長の高橋正弥氏 (南風原町農業青年クラブ) より、「各活動の参加者を増やし、一歩ずつ魅力ある組織にしていきたい」と意気込みのあるあいさつがありました。

(報告者: 橘)



役員あいさつ

ーロゴマークの決定ー

○キャッチフレーズ:

「遊学歩」

～遊びながら、学びながら、一歩ずつ前進する～

○応募総数: 181 作品



※今年度から、決定したロゴマークを広報手段として効果的に活用し、周知徹底を行うことで、知名度の向上を図り農業青年クラブ独自の魅力を模索します!!

～南部地区リーダー研修会～

4月20日(火)、午後4時より、JAおきなわ南風原支店の2階ホールにて、南部地区青年農業者育成確保対策協議会、南部地区農業青年クラブ協議会、南部地区農業士会共催の南部地区リーダー研修会が開催されました。

当日は、農業青年クラブ、指導農業士等、市町村、センター職員など45名が参加しました。講師は元南部農業改良普及センター所長の伊藝安正氏で、「沖縄県果樹生産に期待すること」と題しアテモヤとパッションフルーツの栽培のチェックポイントやアイデア、問題解決のための方法についての提案等、素晴らしい講演会でありました。(普及企画班 神谷)



リーダー研修会

平成22年度 南部地区各組織の役員決まる!!

○南部地区農業士会

会 長：普天間 春行(南城市)
副 会 長：長嶺 幸雄(豊見城市)
書記会計：富名腰 須賀江(南城市)
理 事：熱田 守(南城市)
理 事：伊敷 幸一(南城市)

○南部地区農業青年クラブ連絡協議会

会 長：高橋 正弥(南風原町農業青年クラブ)
副 会 長：仲座 千人(八重瀬町ファーマーズクラブ)
事務局長：神里 智幸(南風原町農業青年クラブ)

○南部地区青年農業者育成確保対策協議会

会 長：新崎 正信(南部農業改良普及センター所長)
副会長：大城 正(豊見城市農林水産課長)
副会長：松本 靖(JAおきなわ南部地区営農振興センター長)

南部地区の担い手、育成支援の
新役員の皆さん今年度も頑張って下さい。

フレッシュマン紹介

みなさんはじめまして。

4月より久米島町駐在普及員をしている長谷智宏です。出身は神奈川県ですが、大学入学を機に沖縄に来て今年で7年目を迎えます。

中部農業改良普及センターに新採用で配属され、農業技術班畜産担当として2年間勤務しておりました。まだ赴任して間もないですが、3月下旬から4月は曇りや雨がが多く、久米島の美しい海と空をまだ見ていないのが残念ですが、楽しみにしたいと思います。

駐在普及員として幅広い農業分野の業務を経験しながら、農業者や地域の方との、人と人との繋がりを大切にして頑張りたいと思います。どうぞよろしく願います。

(久米島駐在 長谷智宏)



はじめまして。

この度、南部農業改良普及センター(園芸技術普及班)で果樹を担当します長堂嘉孝です。

農業研究センター八重山支所および名護支所で9年間、熱帯果樹の栽培試験を行い、その後、園芸振興課野菜花き班で3年間、野菜の担当を経験し、初めての普及センター勤務となりました。

果樹の栽培指導という重要な業務を任せ戸惑っておりますが、関係機関や生産農家の皆様と一緒に南部地域の果樹の振興に全力を尽くしていきたいと思っています。

今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



(園芸技術普及班 長堂嘉孝)